



冠直志 みまろしあき

源氏次女経百人一首

珍奥村政信(丹与者)



源氏女姿繪百人首

丹鳥音

奥村政信 江戸の書肆本居源八 号文角 芳月堂
 截妙 梅扇 丹鳥音
 浮世絵を初在鳥居信信と号ぶ一家を立ち
 自ら日本絵師と称 斯界の名手

「五絵」及「浮絵」の祖 明和五年没 年七十九

雄名記 





八十一

女女と源氏
 姿おほして

冠直衣 源氏女姿繪百人首

後意法師
 振元とて

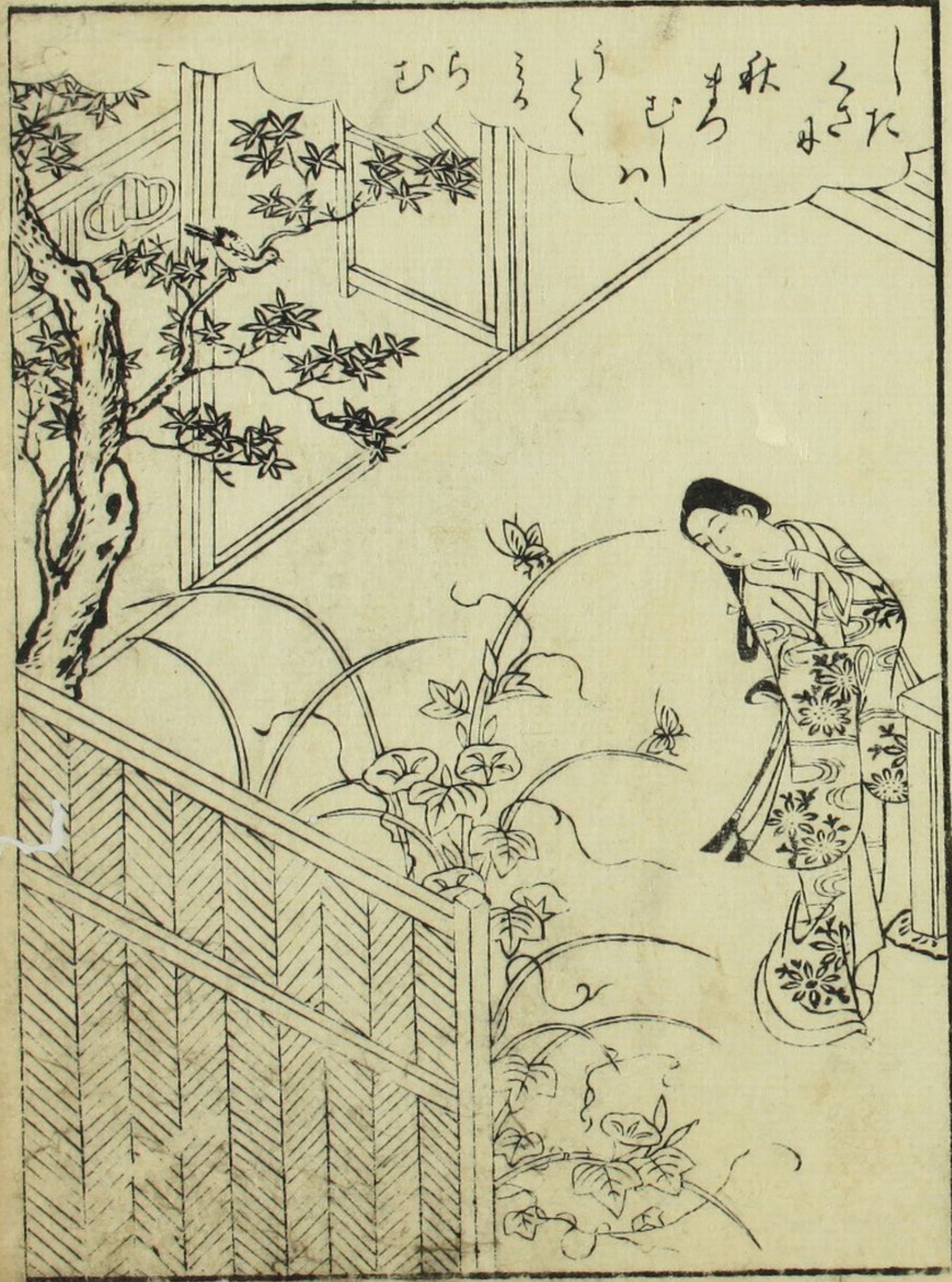
国のひ戸のやうて
 けさるるりり

源氏初音

わねの神音の
 ひりく 音ハ
 つれさるりり



此の音
 かまは
 ねをわ
 らぬや



しら びら 秋 くら びら 川

源 正 上

八十一

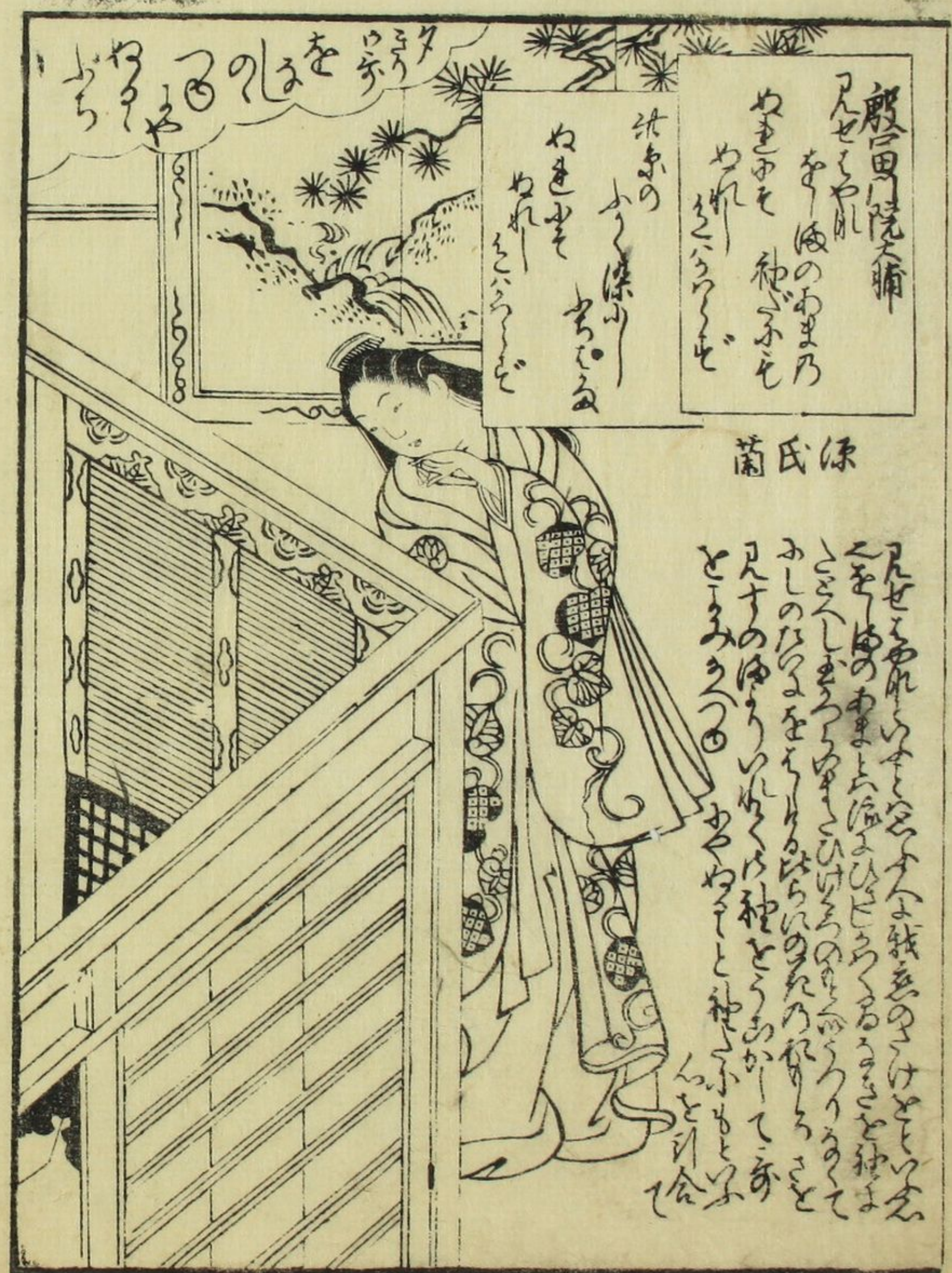


花 その 小 ば け

西の法師
なまじり 月 かりのど
か かり れとは
か かり 蝶の丸
我 かり

蝶 胡 氏 源

人の忘れぬるもの... 月乃のめとありけり...
まはれぬとけり... のありけり...
ふも我個のありけり... のありけり...
むりけり... のありけり...
かた... のありけり...
かた... のありけり...
かた... のありけり...



般目院大輔
見せしやれ
を海のたま乃
ぬきおそ 神さふそ
やれ
こころを
流るの
かきほり
ぬきおそ
あつた

蘭氏保

見せしやれいふとさういふは我々のしげとていふ
之を海のたまとよ倫ふひとていふとあつたを神よ
こそしやるといふとひげのたを命なりうて
みしのたををいふはならぬのたなりうて
見すの海よりいふは神さうあがつて
とよみふつていふと神さうあがつて
ふといふ

おちよ
るは
を
おろ
る

源上

八二六

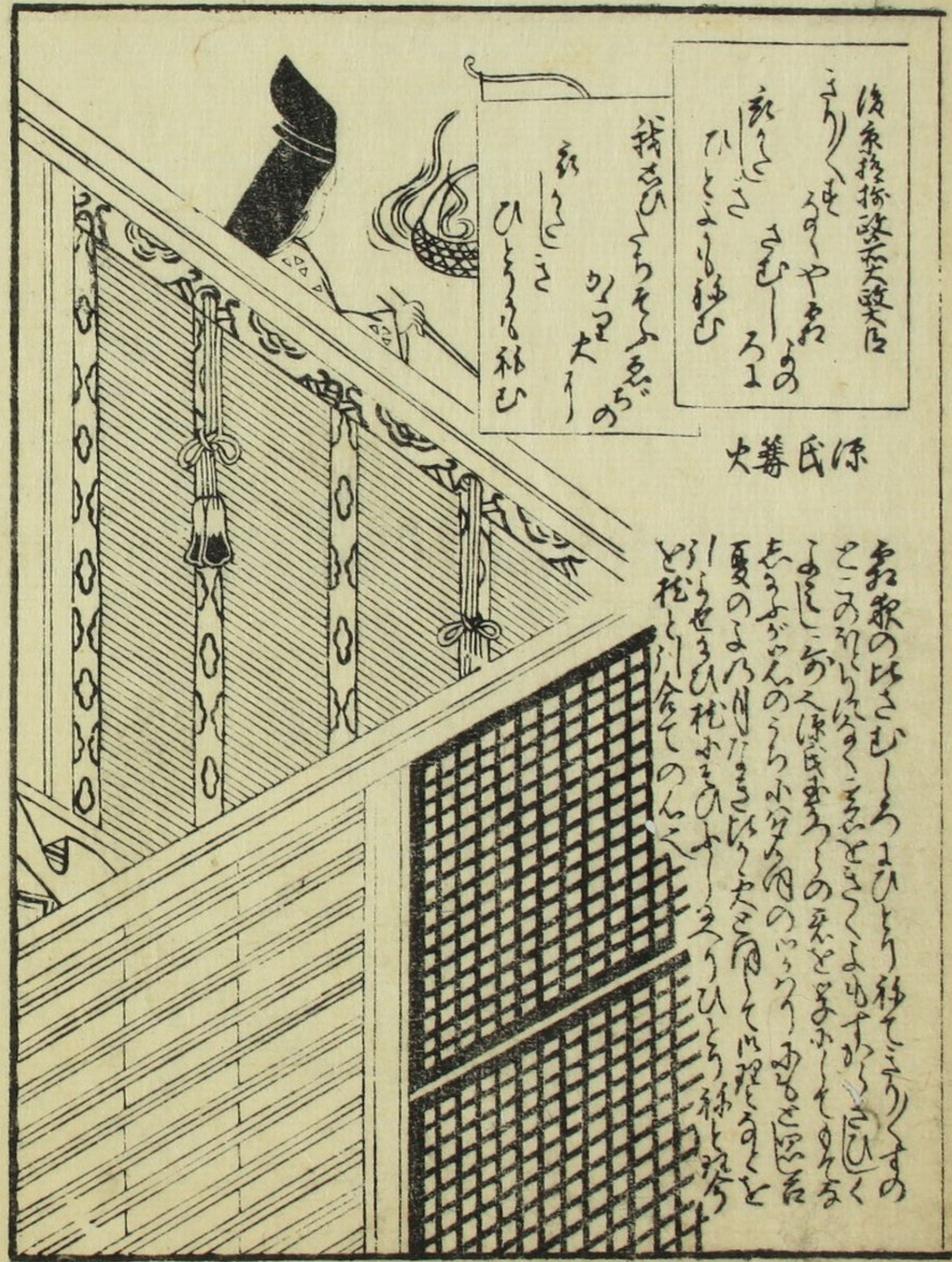


あしる
あは
かたけ
ほし
お
まぐ
の
つ
ら
わ
ら
の
た
ら
の
つ
た
の
あ
と
し



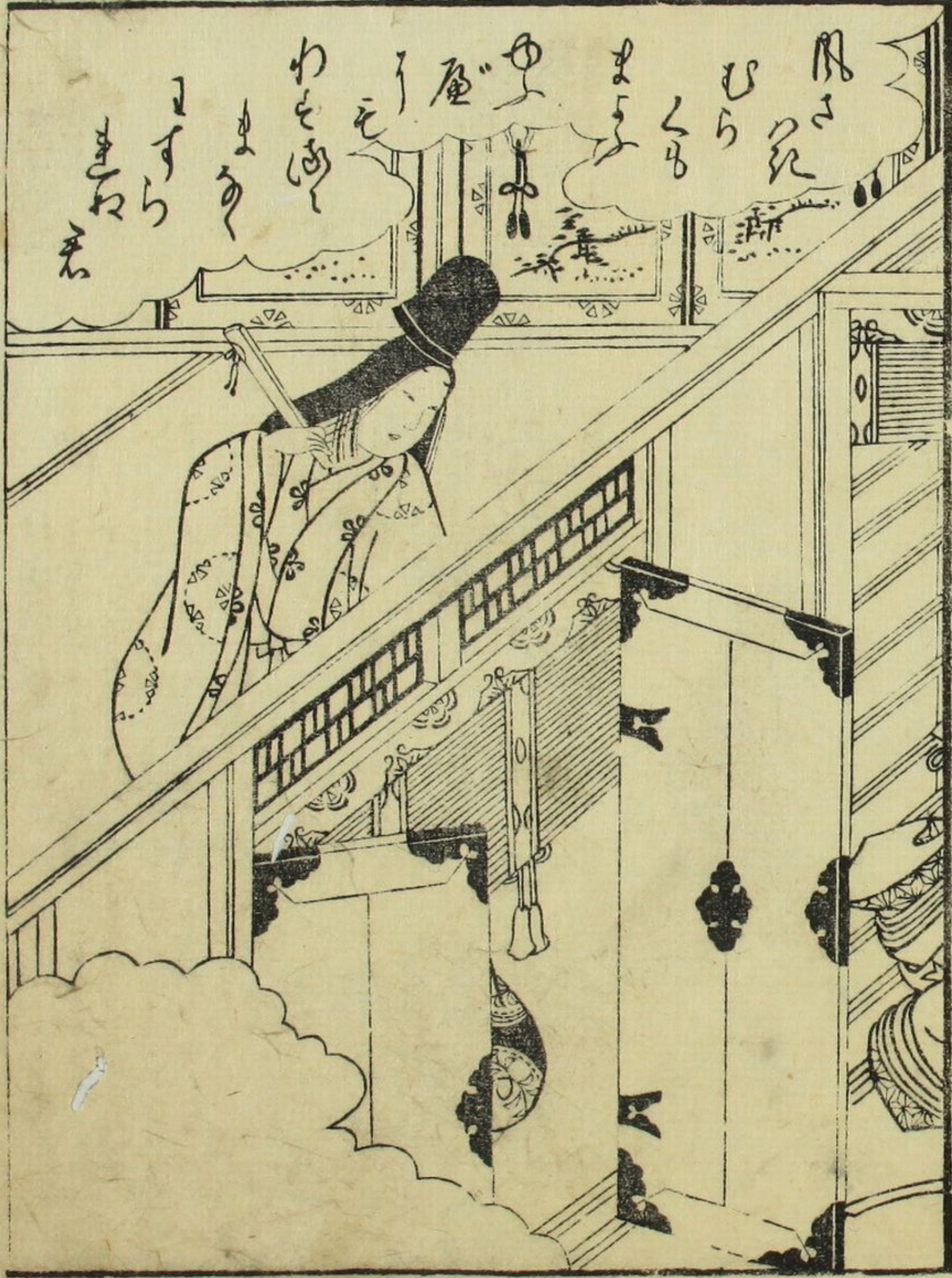
係上

八上



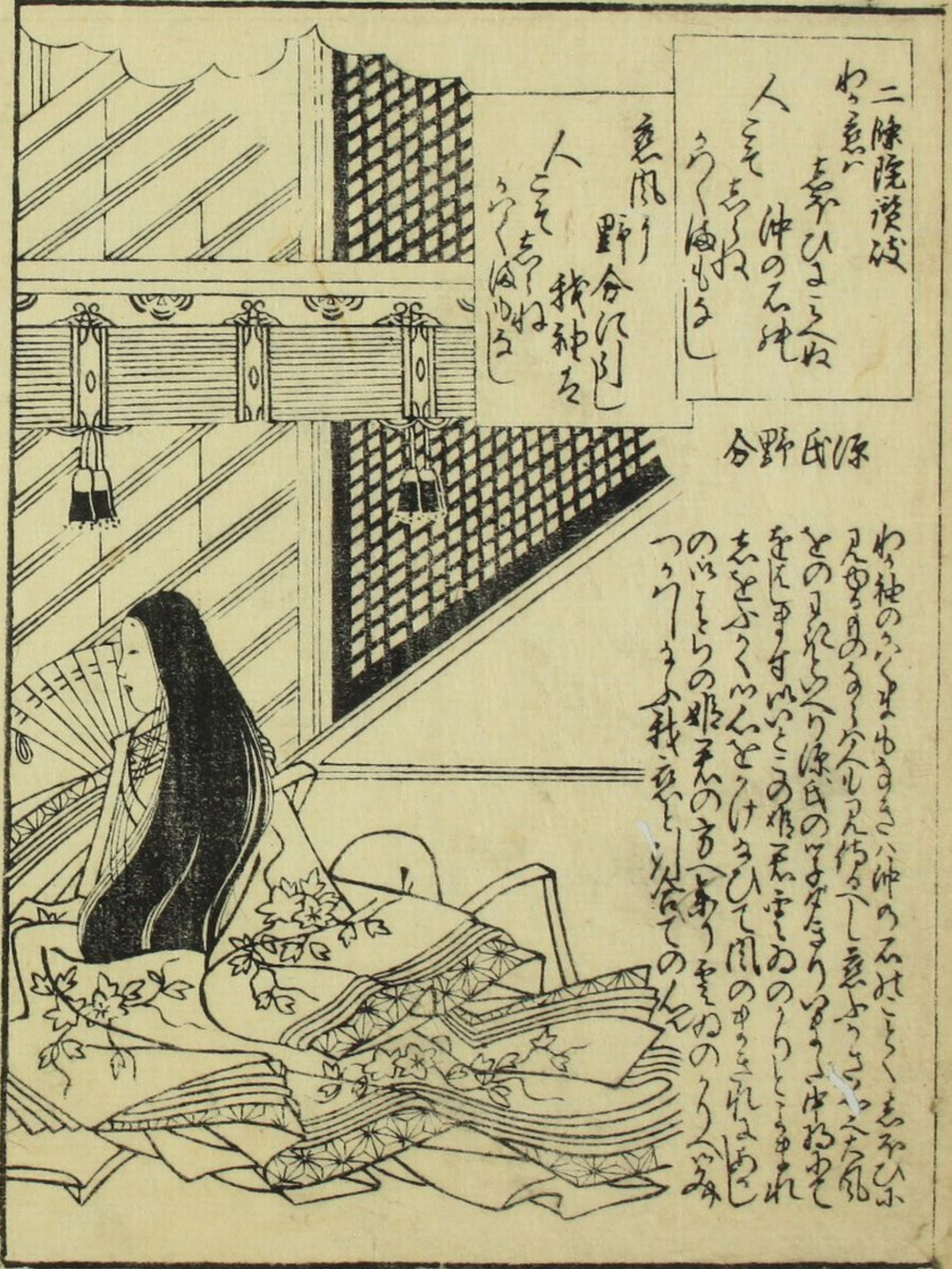
大善氏係

我
 の
 事
 の
 事
 と
 ね
 う
 ら
 ん



月さ
 ひら
 まま
 中
 屋
 元
 わ
 日
 ま
 す
 ら
 ま
 ね
 未

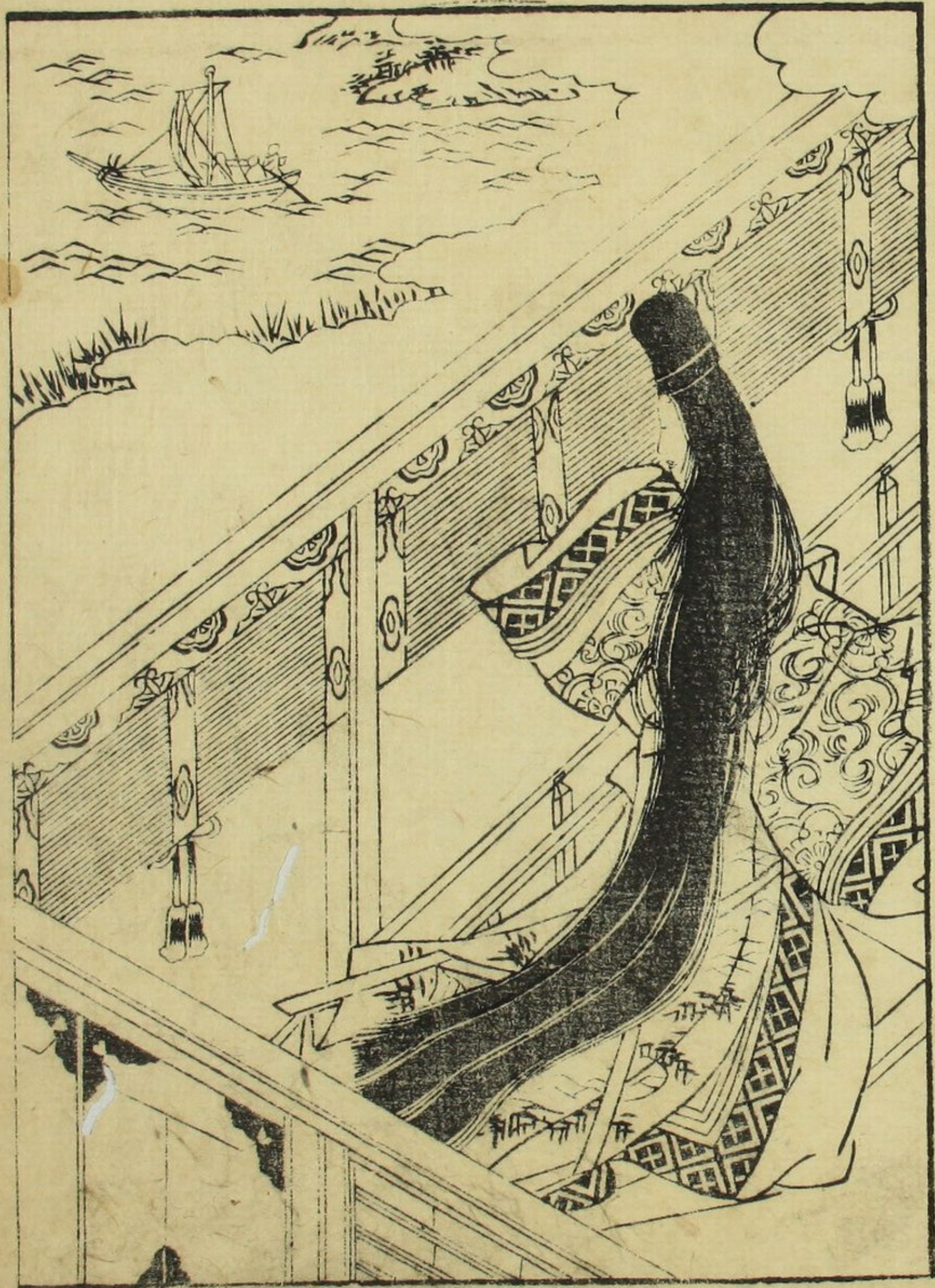
係上



二條院
 ね
 志
 人
 志
 う
 野
 野
 人
 う
 野
 野
 野
 野
 野
 野

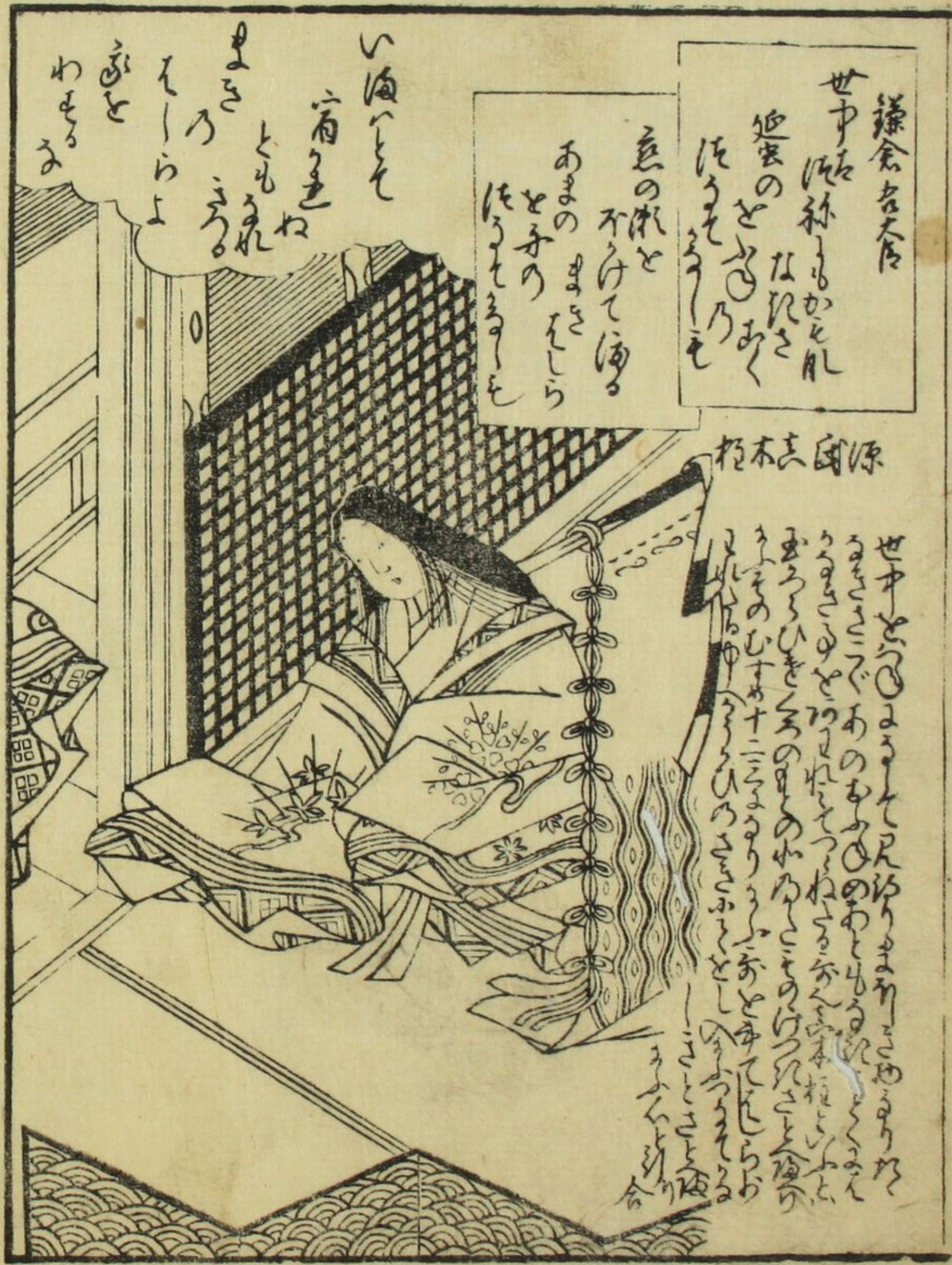
合野氏係

わ
 見
 と
 を
 志
 の
 つ



源

八上九



い海へも
 宿まは
 まさ
 そしらよ
 家と
 わさる
 あまの
 とすの
 ほろと
 意の
 不ひて
 とすの
 ほろと

鎌倉名太
 世中
 迎雲の
 流るる

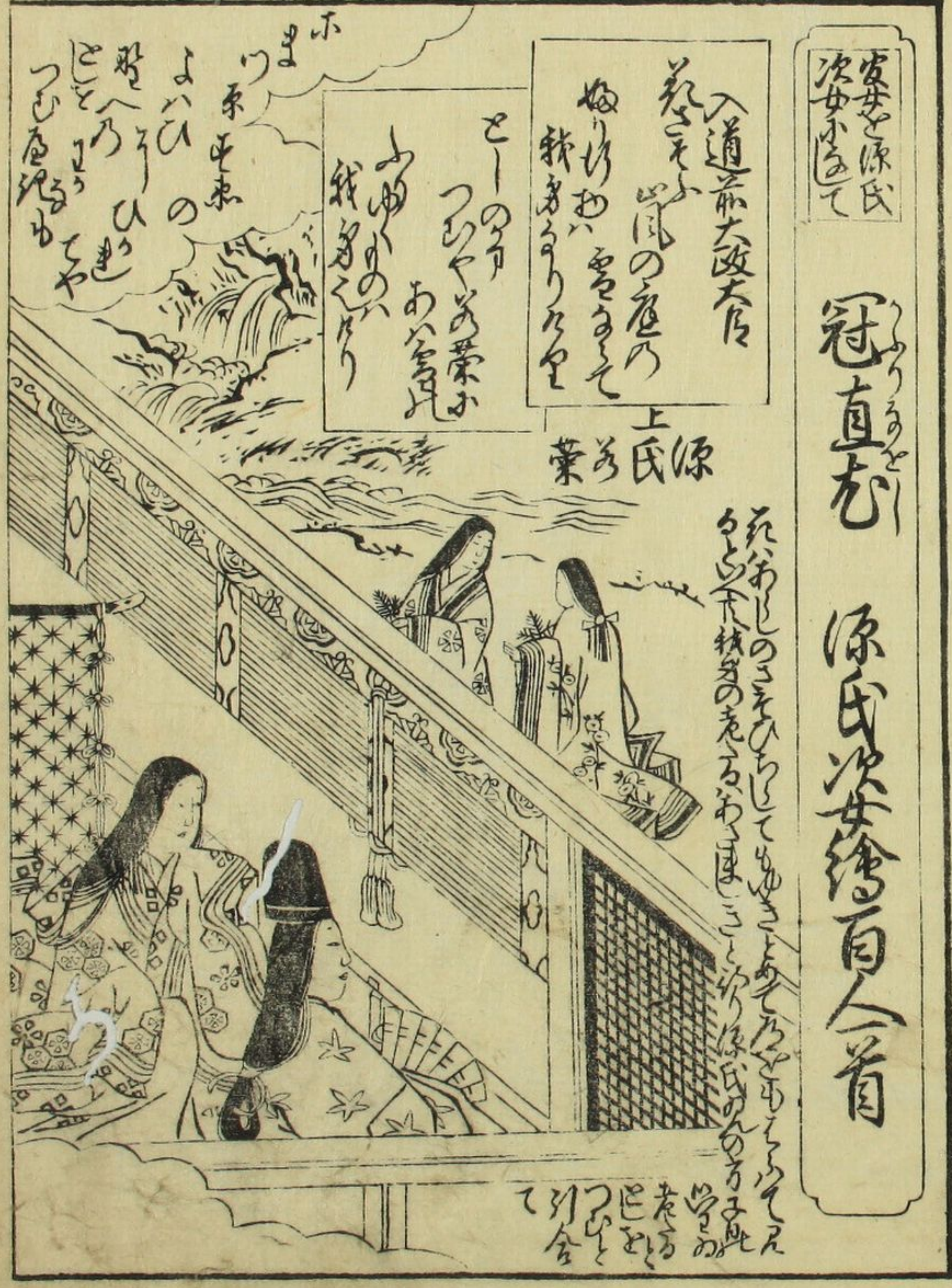
源氏物語

世中せうのよらして足ゆりまわらぬ
 るまに三つあのおのわともる
 うらまひをのりてつねなるか
 まうらひききあのかのこ
 えまのむすか十三なるり
 りれはちかえりひのこ
 ことと
 まふと
 合



侍





源氏次女

冠直心

源氏次女繪百人首

入道前大政大臣
 源氏上
 葉多氏源

とーのり
 つやや葉お
 あいさ
 我多のり

よひの
 源氏
 つるり
 つるり

花あじのさそひりしてゆきとあそびてあそびて
 かつた枝の老方あはれこころ源氏の人の子此

て引合
 ついで
 老方
 巴を
 子此

源下

八下一



前大信意圖
 ね月あめ
 うき世の民か
 我ら
 ねまに
 玉み深のそと

およひる
 友のうきま
 秋ら
 玉み深のそと

ま日
 くら
 くら
 たのらん

源氏友

ねはあうのさそひりしてゆきとあそびてあそびて
 んらとさそひりしてゆきとあそびてあそびて
 の神はむらりゆきとあそびてあそびて
 此らあそびてゆきとあそびてあそびて
 らはあそびてゆきとあそびてあそびて
 友のさそひりしてゆきとあそびてあそびて



今昔
 こと
 ひそ
 なを
 のあ

源下

八下三



正三徳家隆
 風そよよ
 るのこ小川の
 みそれ 夕暮の
 黄の志しあり

源下柏木

るのこ小川名をよみ月をよみ
 くさしとくわのひもせり
 世この天のともまひとる
 ども少見せむひりかあり
 るのこ小川名をよみ月をよみ
 くさしとくわのひもせり



よ祢た来ゆの玉あえぬ

源下



心しるや海か入る

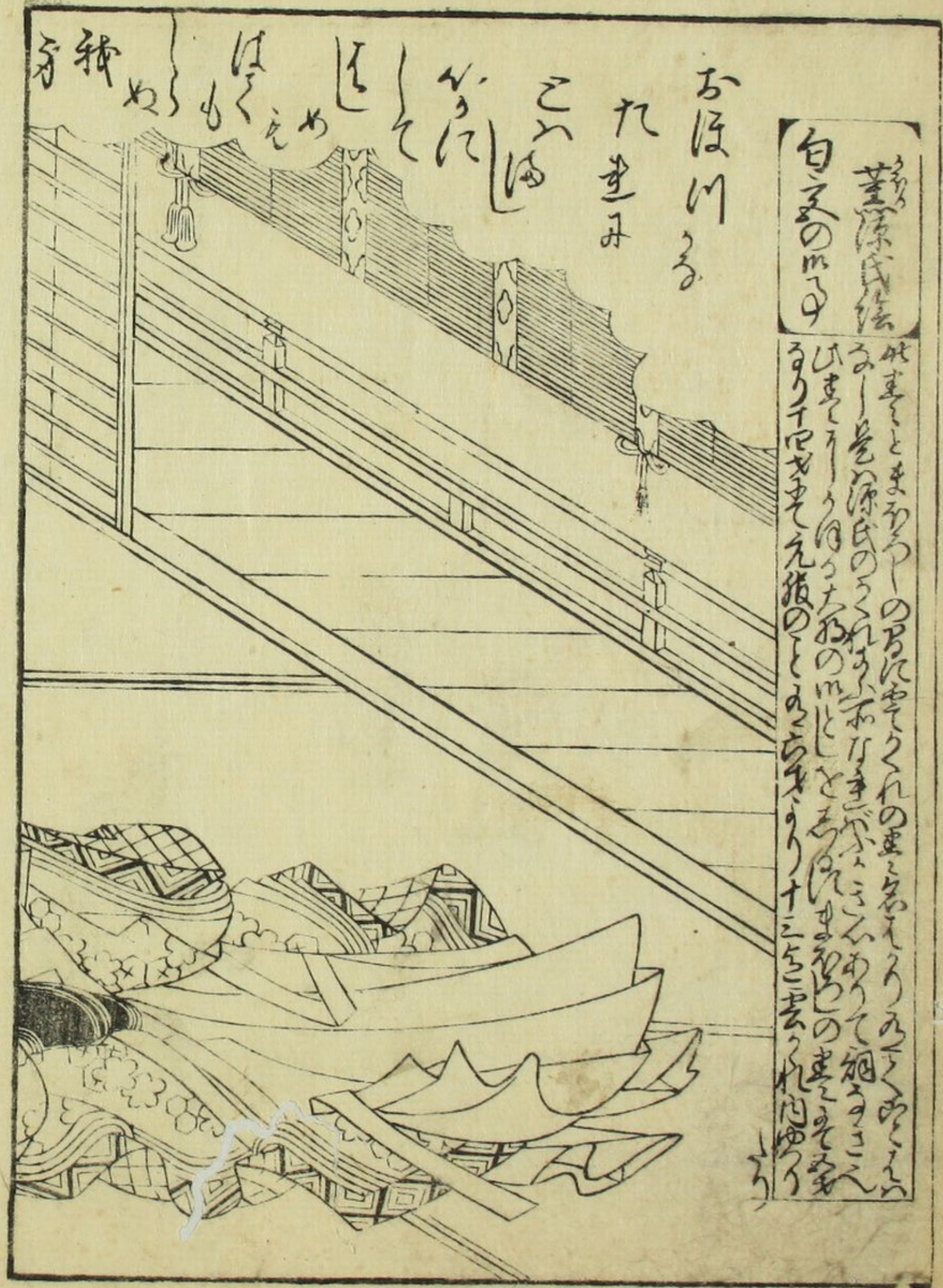
源氏経
幻々事

此書は源氏物語のうらみ...
また源氏物語のうらみ...
...
...
...
...
...
...
...
...
...



源下

八下九



おはつり
たきみ
こゝろ
かたに
はくえぬ
ね

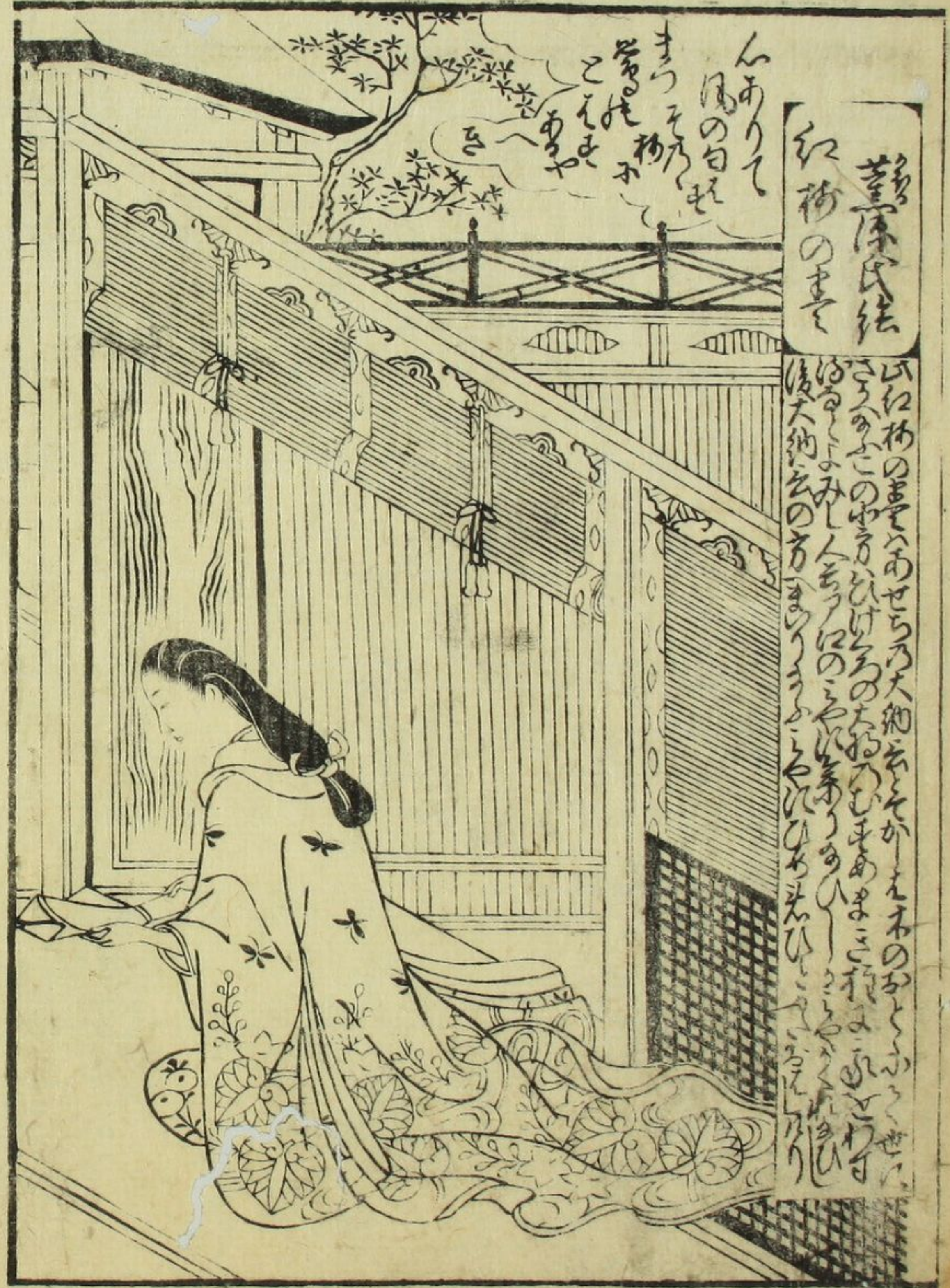
白文のしり

此書とまわりのついでに
あしき源氏のついでに
ひまわりくわのついでに
るり十四世元徳のついでに
ついでに



下

八下十



新原氏法
紅梅の巻

紅梅の巻はあせらる大納言をかよ木のわがふりかへり
さうきこの中の方へけちのたわいのいふあまこと行ふあま
ゆるふみしんちうはのこむあまのうみあまのうみあまの
後大納言の方まうりうかむひあまひさうきかたり

いありて
月の白れ
まうそら
あまは
ことば
あま

